

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

教育いちかわ



子どもの姿 自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

家庭・学校 地域の姿 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する

市川の教育の姿 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-8501
市川市八幡1-1-1
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。
(TOP ⇒ 学校教育 ⇒ 学力向上)
○ちばっ子チャレンジ100
(小学校の国語と算数の問題)
○家庭学習のすすめ
(小学生、保護者向け)

『豊かに伸びゆく市川の子どもたち』

市川市及び全国学力・学習状況調査の結果から

昨年度に引き続き「市川市学力・学習状況調査」を、市内の公立小学校の5年生と中学校の2年生を対象に実施しました。また、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」は、全小学校の6年生と全中学校の3年生を対象に実施され、8月末に結果が公表されました。両調査の結果からは、本市の子どもたちに学力の向上と生活・学習行動について改善がみられています。



学力が向上!

「市川市学力・学習状況調査」の結果では、小学校5年生の国語、算数の平均正答率は、全国平均正答率とほぼ同程度となっています。中学校2年生の国語、数学の平均正答率は、全国平均正答率を、大きく上回っています。

さらに「全国学力・学習状況調査」の結果でも、本市の小学校、中学校ともに、全国の平均正答率を上回る結果でした。小学校では、国語、算数ともに知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などが大きく向上しています。中学校では、前回の平成21年度の結果と比較すると大きな向上が見られています。

生活行動や学習習慣の改善!

生活行動の調査結果では、小学校では「家庭で学校の宿題をしている」「授業の予習や復習をしている」「国語や算数の勉強が好きである。また、大切であると思う」など、『あてはまる』と答えた割合が増えています。中学校では「自分にはよいところがある。将来の夢や目標を持っている」「授業の予習や復習をしている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。生徒間で話し合う活動をよく行っている」など、『あてはまる』と答えた割合が増えています。

『つなぐ教育』のさらなる推進!

各学校では、自校の調査結果から成果や課題を分析し、授業改善や指導方法の工夫などに取り組み、日々の学習指導に反映させていきます。子どもたちの実態から重点目標を定め、その課題解決を目指す授業研究、表現することや考えることを重視した学習、共感的な人間関係を基盤にする授業づくり、一人一人に応じたきめ細かな少

人数指導などを進めてきた努力が、子どもたちの学力・学習状況の向上につながっていると考えています。

また、保護者の皆様のご協力により、予習、復習等も含めた家庭学習に進んで取り組み、自信の持てる子どもが増えたことも大きな要因と考えています。

教育委員会では、これまで積み重ねてきました家庭、学校、地域、行政が連携・協力し、ともに子どもたちを育てる『つなぐ教育』のさらなる推進と充実を図ってまいります。【指導課】

学校施設の耐震化進行中!!



耐震補強工事が進む若宮小学校 校舎
(撮影日：平成25年9月26日)

学校施設は未来を担う子どもたちが集い、一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、また、地震等の非常災害時には地域住民が参集する避難場所や小学校防災拠点となることから、子どもたちをはじめ、そこに集う人たちの安全と安心を十分に確保する必要があります。

そのために、市川市では耐震診断の結果から、平成20年に学校施設を含む市が所有する建物の耐震補強工事を中心とした「市川市市有建築物耐震化整備プログラム」を策定して、建物の耐震化を進めています。

学校施設として、平成25年度は小学校17校22棟、中学校4校4棟の工事を行っております。【教育施設課】

☆平成25年度耐震補強工事☆

- ・小学校17校22棟
 - ①真間小学校 ②中山小学校 ③大柏小学校 ④宮田小学校
 - ⑤富貴島小学校 ⑥若宮小学校 ⑦平田小学校 ⑧鬼高小学校
 - ⑨行徳小学校 ⑩稲荷木小学校 ⑪鶴指小学校 ⑫宮久保小学校
 - ⑬二俣小学校 ⑭中国分小学校 ⑮曾谷小学校 ⑯新浜小学校
 - ⑰南新浜小学校
- ・中学校4校4棟
 - ①第一中学校 ②第二中学校 ③第五中学校 ④第七中学校

豊かな家庭教育のために連載(2)「子どもとの会話を大切に！」

家庭は、子どもにとって最も心安らく居場所です。そして、家族の間で交わされる温かい会話やだんらんを通して多くのことを学んでいきます。日頃から、家族のコミュニケーション、とりわけ子どもとの会話を大切にしていきたいでしょう。

・一日の出来事を聞いてあげていますか？

「うれしかったこと」「楽しかったこと」「いやだったこと」「くやしかったこと」など、子どもの話を聞いてあげること、安心して何でも話せる親子の信頼関係を築くことができます。



・子どもとの会話の3つのポイント

①今自分がやっていることをやめ、子どもの顔をよく見て、最後まで話を聞く態度で接する。②あいづちを打ったり、子どもの言葉を繰り返したりする。③「それからどうしたの？」などの質問をする。

・中学生の子どもに対しては

自分の意見や考え、都合を押しつけていませんか？ 子どもの気持ちや考

えを受け止めていますか？ 結果だけではなく、努力の過程を認めてあげていますか？など、子どもの考えを認めることが大切です。

さて、千葉県教育委員会のホームページに「親力アップ!いきいき子育て広場」というサイトがあります。その中には、「聞いてみよう子どもの声」「子育て豆知識」「サブコンテンツ→親力自己診断」(それぞれ幼小中各編があります)や「中学生への道案内」(中学校編)などのコンテンツがあります。参考にしてください。また、「親に言われて」のコンテンツの中に、中学生が親に言われて、①うれしかった言葉・「がんばったね」「よくやったね」「すごいね」「偉かったね」「応援しているよ」「ずっとずっとあなたの味方だからね」「あなたは一人じゃないんだよ」②いやだと感じた一言・「こんな問題もできないの」「何、この点数」「どうしてわからないの」「お姉ちゃんはできたのに」「遊んでばかりいないで勉強しなさい」「携帯やTVばかり見てないの」「そんなことも一人でできないの」「自分のことは自分でやれ」が紹介されています。

ご家庭でも、子どもの気持ちや考えをしっかりと受け止めて、子どもとの会話を大切にしていけることにより、家庭が子どもにとって最も心安らく居場所となるようにしてほしいと思います。

(生涯学習振興課/家庭教育指導員)

様々な経験を子どもたちへ

～市川市青少年相談員が大活躍！ いちかわ子ども村～

市川市青少年相談員は、青少年と共に喜び、共に語り、共に行動する事で地域の青少年健全育成推進の担い手として、子どもたちが元気に明るく成長していくためのお手伝いをしています。

スポーツ、野外活動等を通じた体験学習等の促進、ボランティア活動等、社会参加活動の推進、また、他の青少年団体と協力し地域活動の活性化の促進など、幅広い青少年健全育成活動を行っています。



様々な活動の中でも一番の行事である「いちかわ子ども村」は、市内在住・在校の小学校4～6年生を対象に、毎年夏休みに市川市少年自然の家

に宿泊する1泊2日のキャンプで、団体生活の中で協力することがいかに大切であるかを体験してもらうものです。

今年は、7月27日(土)、28日(日)に「夏空に☆ひびけみんなの声」をテーマに、班別対抗のスポーツゲームや水遊びを行い、クラフトではオリジナル扇子作り、夕食はみんなで協力してカレーライスを作りました。夜はキャンプファイヤーを行い、レクリエーションや歌で楽しい時間を過ごしました。

自分で考えながら行動し、違う学校・違う学年の仲間と協力しながら、普段とは違う体験ができるキャンプは、家族のありがたさを再確認したり、新しい仲間との絆を深めるなど、子どもたちがいっそうたくましく成長する絶好の機会です。



相談員にとっても、子どもたちが笑い、感動し、充実した時間を過ごしながら見せる様々な表情が大きな力になっていると思います。【青少年育成課】

3泊4日のキャンプでリーダー活動に挑戦!

～ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクール 合同トレーニングキャンプ～



丸太切り

8月6日(火)～9日(金)の3泊で、静岡県立朝霧野外活動センターにて、ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクール合同トレーニングキャンプを開催しました。

このキャンプは、ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクールともに全7回の講習会のうちの核となる講習会です。今年度は、大谷能久講師にご指導いただきました。

合同トレーニングキャンプの魅力は、講師・大学生の支援の下、中学生、高校生が主体となって組織でキャンプを行うところです。中学生は、班単位で役割を決め、班長を中心に集団活動をしました。高校生は、プログラムの進行を担当するプログラムリーダー、物品や食材の準備を担当するマネジメントリーダー、中学生班をサポートする班付きリーダー、この3つの役割に分かれて運営する立場で活動しました。参加者全員が役割を持ち、組織の一員として活動するため、集団生活の意識を常に持ち、協力し合いながら活動することでより質の高い活動ができます。「次の集合時間はいつか」、「手が空いている自分は今何をすべきか」、「危険を伴う活動で注意することは」など、参加者それぞれが集団の一員ということを生懸命考えて活動した4日間でした。

大自然の中、いろいろな成功体験や失敗体験を通して、一回り大きく成長することができました。

今後、様々な活動で今回の体験が活かされると思います。【青少年育成課】



夕食作り



かまど炊き

自然の中での貴重な体験!



出張授業

～考古・歴史・自然博物館の学芸員と共に～

考古、歴史、自然の各博物館では、学芸員が、市内小中学校の教室に実物の教材を持ち込んで行う出張授業に積極的に取り組んでいます。

【古代の生活を知ろう 考古博物館】

考古博物館では、旧石器時代～古墳時代の土器や石器の実物や、金印のレプリカなど、社会科の教科書に掲載されている資料を使った授業を第七中学校で行いました。学芸員による、資料の解説だけでなく、実際に子どもたちに資料に触れてもらう体験を通して、歴史をより身近に感じてもらった活動になりました。



また、第七中学校、第八中学校、福栄中学校では、市川市内から出土した約5500年前の縄文土器の展示も行っています。郷土史への関心も高めてもらえると思います。

【昔の道具を使ってみよう 歴史博物館】

歴史博物館では、国府台小学校で行われた「しらべようわたしたちの市と昔」の授業において、洗濯板を使った「昔の洗濯体験授業」を行いました。

最初は、使い方がわからなかった子どもたちも、洗濯板の向きや、洗濯用石鹸の使い方などを教えられると、上手に洗濯をすることができました。子どもたちからは、「おもったより大変だった」「きれいになった」「楽しかったけど、家族分やるのは大変そう」といった声が聞かれました。

自然の中でテント泊にチャレンジ!

～わんぱくセミナー冒険キャンプ～

8月23日(金)～25日(日)に、いちかわ市民キャンプ場にて、わんぱくセミナー冒険キャンプを開催しました。



テント張り

このキャンプは、わんぱくセミナー(小学校5・6年生対象)全5回の講習会のうちのメインとなる講習会です。

今年度は、参加者を2グループに分け1泊2日のプログラムを2回行いました。講師には、市川市キャンプ協会より加藤光男氏にお越しいただき、ご指導いただきました。

今回のキャンプは、テント泊・カレー作り・キャンプファイヤーのプログラムを中心に活動しました。テント泊では、テント設営直後に大雨に見舞われるというパブニングもありましたが、無事テントを張り、仲間と過ごせる一夜をとて喜んでいました。カレー作りでは、薪を割ったり、お米を研いだり、食材を切ったり、火を起こしたり、仲間と声を掛け合って一生懸命協力していた姿が印象的でした。キャンプファイヤーでは、豊かな自然の中、みんなで輪になって歌ったり、踊ったり等、楽しく盛り上がりました。

1泊2日のわんぱく冒険キャンプを通して、参加した子の表情が少しくましくなったように見えました。自然の中で泊まったこと、仲間と協力して頑張ったことや一緒に過ごして楽しかったことが、夏休み最後の思い出として心に残ったことでしょう。【青少年育成課】

本物を見て さわって



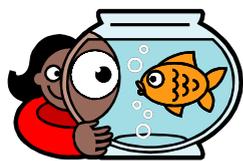
【市川の魅力発見！干潟の生き物にさわってみよう

自然博物館】

自然博物館では、行徳小学校3年生の総合的な学習の時間に、「市川の魅力発見」と題して、干潟の生き物についての授業を行いました。職員が江戸川放水路から「マハゼ」や「マアナゴ」など14種類の干潟の生き物を採取し、人工海水が入った水槽に入れて学校に運び込みました。



学芸員から観察するにあたってのアドバイスを受けた子どもたちは、「どのくらい大きく育つのかなあ」「これは目かな？何をするとところなのだろう」と目をまん丸くして食い入るように観察を行い、自分で発見したことを友だちに自慢したり、次々とわいてくる疑問について、学芸員に尋ねたりしていました。「お父さんとよく釣りに行く所だけど、こんなにたくさんの生き物があるなんておどろいた！」「普段は逃げちゃうけど、今日はじっくり観察できてうれしいな！」「意外とヌルヌルしているなあ」「こんな生き物初めて見たよ！おもしろいなあ」といった声が聞かれました。



情報が氾濫する中、子どもたちの体験不足が懸念されています。各博物館では、子どもたちが、実物を自分の目で見て、自分で触って、自分で気づき、考える場を提供できるよう、今後も出張授業を推進していきます。

【考古博物館 自然学習課】

～世界を見据え、未来に向けて～

中学生海外派遣事業



ドイツ・ローゼンハイム市への派遣

市内公立中学校の代表生徒16名が、7月21日(日)～8月4日(日)までドイツ・ローゼンハイム市に派遣されました。出発までの約2カ月間におよぶ事前研修会では、ドイツで発表する課題の制作、歌やダンスの練習を行い、新しい仲間との絆を強めました。

ドイツ・ローゼンハイム市では現地の家庭にホームステイをしながら、ホストスチューデントと通学をし、休日はホストファミリーと一緒に日本では体験できない貴重な日々を過ごしました。親元を離れ、言葉も生活習慣も全く異なる未知の世界に勇気を持って飛び出した派遣生徒たちは、言葉の壁や異文化に触れたことで語学向上の必要性や自己表現の大切さ、家族への感謝の気持ちを知りました。

そして、派遣で得た友人、経験、思い出など全てが彼らの宝物でもあり人生の指針となることでしょう。

帰国後の派遣生徒たちは、すでに世界を見据えて未来に向かっていきます。

【指導課】



ドイツ生徒と交流をする派遣生徒

市川市の取り組みを全国へ

—平成25年度全国養護教諭研究大会—



小林靖幸医師の発表

8月8日(木)に山梨県甲府市総合市民会館で、平成25年度全国養護教諭研究大会が開催されました。この大会は、学校保健活動の中核となる養護教諭の支援や連携のあり方について研究協議する趣旨で毎年開催されております。

大会1日目(8日)のシンポジウムでは、市川市学校保健会評議員の小林靖幸医師(富貴島小・鬼高小・若宮小学校

医)が、千葉県代表として「市川市ヘルシースクール(すこやか検診)の取り組み」を発表しました。

主な内容は、学校保健関係者4人の討議者が「学校保健の推進のため、組織・連携のありかた」をテーマに協議しました。小林医師は市川市学校保健会及び学校医の立場で、また、すこやか検診の推進リーダーとして、平成17年度から8年間の検診結果に基づく分析、成果や課題について、市川市の生活習慣病予防をわかりやすく説明されました。

参加者の方々からも「とてもすばらしかった」「自分の勤務している学校でも取り組んでみたい」などの高い評価を受けました。

2学期も半ばに差し掛かりますが、子どもたちの生活習慣のリズムを整え、明るく健やかな学校生活が送れるよう、ご家庭でもご協力をお願いします。

なお、各学校での健康づくりの取り組みについて、ぜひ情報をお寄せください。可能な範囲で情報発信していきたいと考えております。

【保健体育課】

◆◇市川市児童生徒科学展◇◆

深く探究している作品の数々

9月7日(土)～8日(日)に県立現代産業科学館で「市川市児童生徒科学展」を開催いたしました。夏休みなどに市内の小中学生が工夫を凝らし完成させた「科学論文・科学工夫作品・標本」575点を展示しました。

今年度も、児童生徒が深く探究していることがわかる科学論文や科学工夫作品や標本が数多く見られました。夢中になれるテーマに出会った児童生徒はとても有意義な夏休みになったと思います。インターネットが普及して情報が簡単に得られるからこそ、オリジナリティーの高い作品が一層求められていると思います。

2日間で3,756人ももの来場者を迎え、大盛況のうちに幕を閉じました。ひとつ大変残念に思ったことがあります。作品を大切に扱ってほしいという願いを昨年よりも多く掲示しましたが、展示をしていた作品の一部が破損してしまったことです。あらためて、一生懸命作った子どもたちの気持ちを考えていただければありがたいです。

今年度は、小さなお子さんに注意をしてくださる保護者の方が多く見られました。来年度も是非ご協力をお願いいたします。

優秀作品は、市川市のホームページに掲載してあります。

(市川市TOP→教育委員会→学校教育や幼稚園教育に関する情報)

また、そのうち30点は、10月19日(土)～20日(日)に千葉県総合教育センターで行われた県の科学展に出品されました。

【指導課】



子どもの脳を伸ばす脳ハウ ～脳健康と成長のしくみ～ 健康教育講演会



学術博士、吉野加容子(よしのかよこ)氏

8月21日(水)に昭和学院伊藤記念ホールにおいて健康教育講演会が開催されました。

健康教育講演会は、子どもたちの健康増進と疾病予防を目的として、市川市学校保健会と市川市教育委員会の共催で、平成元年度よりスタートし、今年で25回目を迎えました。

今回は、脳科学・脳機能の研究者として、学術博士であり「株式会社 脳の学校」主任研究員として活躍されている、吉野加容子氏にご講演いただきました。

吉野氏は慶應義塾大学大学院在籍中に、脳画像を用いた「脳を育てる教育」の研究を始めました。脳にはそれぞれの働きをする120か所の「脳番地」があり、成長と共に個性が生まれていくことに注目し、脳の成長のしくみを研究しながら、相談者の脳育成を支援する仕事を行っております。近年の研究では、学習や記憶に関係する海馬(かいば)の発達遅滞を調べることで、「脳を育てる学習支援」がより正確になってきているとのことでした。

また、学習をする際には、脳の酸素消費が大きく関係していることから、「理解できた。わかった」という経験が多くなるほど、たくさんの酸素を消費し、脳が活性化し、脳細胞どうしのネットワークの成長につながるとのことでした。

子どもの脳を育てる脳ハウのポイント

- 1 得意な脳番地をさらに強め、苦手な脳番地とネットワークをつなげていくこと。
- 2 学習する際には、脳が向かう道筋(ゴール)を決めて、できるのを待つこと。
- 3 ゆっくり学習することで脳がたくさんの酸素を使う。

具体的なトレーニングとして、1日20分の聞き取り書き、逆さま書き、腰を落とす運動、逆さ言葉、※脳番地日記などが挙げられました。思考系、伝達系、感情系、運動系、理解系、記憶系、聴覚系、視覚系の代表的な8つの脳番地に当てはめて子どもの個性を捉えること、脳番地ごとにトレーニングを行うこと、いくつになっても脳は成長を続けることの重要性が強調されました。

参加者からいただいた感想では、「新しい視点で脳を考えることができた」「自分の学級でも早速取り入れてみようと思った」「脳は成人になってからも成長することがわかり、もっと鍛えることが大切だ」等、前向きな活用につながるコメントが数多く寄せられ、とても素晴らしい講演会となりました。

※脳番地日記…1日の生活を寝る前からさかのぼって時間通りに配列する日記を書くこと。

【保健体育課】

むかし体験 博物館で過ごしてみませんか?

～歴史博物館企画展開催中～

歴史博物館では、12月23日(月・祝)まで、企画展「昔のくらしと道具を探そう」と関連して、小学生向けの体験学習を実施しています。

期間中は見るだけでなく、実際に手にとってさわったり、自分たちが体験したりすることができます。子どもたちには「蚊帳に入ってみよう」や「洗濯道具にさわってみよう」のコーナーが人気です。テレビでしか見たことのない蚊帳の中にみんなで入ったり、手動の洗濯機の取っ手を回して脱水をしたりと、子どもたちは興味津々でいつも行列ができています。

その他にも、黒電話や、大きなのこぎり、材質の異なる様々なやかんやきれいな和菓子の型などにも触れることができ、昔を懐かしむ保護者の皆様にも人気です。

また、火打石を使った火おこし体験もできます。初めて見る道具に



とまどっている子どもたちも、しばらくするとこつをつかんで、火打石と火打金を絶妙な角度で打ち合わせて、上手に火花を散らしていました。

～博物館オータムフェスタ～

考古・歴史博物館では、11月2日(土)に、毎年恒例の「博物館オータムフェスタ」を開催します。

今年は、毎回ご好評をいただいている、焼き芋作りや火おこし体験、ワラ細工体験に加えて、歴史博物館に収蔵されている昔の農機具の操作体験も行います。

お米ともみ殻を分けるために使った「唐箕(とうみ)」や、博物館ボランティアの方々の協力によって蘇った「ワラない機(ワラ縄を編む道具)」などを使って、昔の農作業の雰囲気を実際に味わっていただく予定です。

参加は自由で、事前予約の必要はありませんが、焼き芋体験のみ料金がかかります。

さわやかな秋のひとときを、昔の道具を見て、さわって、ご家族一緒に昔体験をしてみたいはいかがでしょうか。

【考古博物館 歴史博物館】



蘇ったワラない機と唐箕

平成26年度 市川市立小・中・特別支援学校 「学校評議員候補者」募集

学校教育に関心があり、学校運営について提言や助言をいただける学校評議員候補者を募集します。各学校より公募による学校評議員の要望があった際、候補者(登録者)を紹介することとなります。

- ◆出願資格 学校教育に関心のある方で、成人であれば年齢職業不問。
 - ◆募集人員 若干名
 - ◆登録手続き 履歴書及びレポートの提出
 - ◆募集期間 12月20日(金)まで
- 詳しいことは、下記にお問い合わせください。

市川市教育委員会 学校教育部義務教育課 教職員班
TEL 047-334-1638
FAX 047-336-8047
※問い合わせ時間 平日9:00~17:00



博物館オータムフェスタ

日時: 11月2日(土) 11:00~15:00

場所: 考古博物館、歴史博物館
堀之内貝塚公園

参加費: 焼き芋(100円)
その他の体験は無料

申し込み: 先着順
(材料がなくなり次第締め切ります。)

問い合わせ: 考古博物館 TEL373-2202
※荒天中止です。



子どもにかかわる相談は、ここでできます

- 家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談 (対象:小学1年生~20歳未満) 少年相談 (少年センター) TEL320-3340 月~金 (9:00~17:00 ※木のみ19:00)
- 子育てや教育に関する様々な悩みについての面接相談 (対象:3歳~中学3年生) 教育相談 (教育センター) TEL320-3336 火~土 (9:00~17:00)
- 主に不登校についての相談 (対象:小学1年生~中学3年生) ほっとホッと訪問相談 (教育センター) TEL320-3362 火~金 (12:30~17:00)